長崎医療センター
NAGASAKI MEDICAL CENTER NEWS

専齋 SENSAI

2026 VOL.445

発行所
独立行政法人国立病院機構
長崎医療センター
〒856-8562
長崎県大村市久原2丁目1001-1
TEL 0957-52-3121
FAX 0957-54-0292



4月1日より新体制となりました。
心安らぐ病院づくりに、職員一同取り組んでまいります。

令和8年度の病院目標

臨床研究センター長就任のご挨拶
臨床研究センター長　小森 敦正

事務部長就任のご挨拶
事務部長　池間 忍

TOPICS
・学会を肺ジャック!

ガーデニングだより　Vol.24

医長紹介
内分泌・代謝内科医長　野崎 彩

プロフェッショナルを紹介します!!
Vol.6 尾﨑 真人

令和8年度新入職員

外来診療担当医一覧

長與 專齋（1838年～1902年）

大村藩御殿医の家系に生まれる。緒方洪庵の適塾に学び、福澤諭吉の後を襲い塾頭となる。初代衛生局長として我が国の近代医療制度の確立に尽力した。衛生という言葉をはじめて採用したのも專齋である。專齋の生家は「宜雨宜晴亭」と呼ばれ、長崎医療センター敷地内に移築されている。

令和8年度の病院目標

院長 髙山 隼人

令和8年度は、診療報酬の改定と新たな地域医療構想に向けた議論、院内としては病床再編など大きな動きが始まります。本年度の病院目標として、「患者満足と職員の達成感の向上」と「経営基盤の安定化」の二つを柱として取り組んでまいります。

まず、「患者満足と職員の達成感の向上」です。患者・家族が安心し納得できる医療の提供を実現するためには、医療の質と安全の確保はもとより、丁寧な説明や円滑な連携が不可欠であると考えております。また、IoTを利用した業務の効率化やタスク・シフトの推進、教育・人材育成の充実を通じて、患者さんを支える職員がやりがいと成長を実感できる環境づくりにも引き続き努めてまいります。

次に、「経営基盤の安定化」です。医療を取り巻く環境が大きく変化する中、持続可能な医療提供体制の確立に向け、経営基盤の安定化にも注力してまいります。「急性期拠点病院」として、病床の適正運用や救急医療の円滑な受け入れ、紹介・逆紹介の推進などを通じて、地域の中で求められる役割をより一層果たしていく所存です。

これらの取り組みは、地域の医療機関の皆様との連携なくしては成り立ちません。今後も病病・病診連携を一層深化させ、それぞれの機能を活かした切れ目のない医療提供体制の構築に努めてまいります。

引き続き、皆様のご指導とご支援を賜りますよう、何卒よろしくお願い申し上げます。



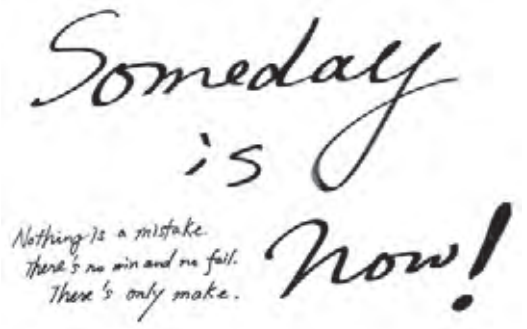
病院目標

1. 患者満足と職員の達成感の向上
2. 経営基盤の安定化



臨床研究センター長 就任のご挨拶

小森 敦正



2026年4月1日付で臨床研究センター長を拝命しました、肝臓内科の小森敦正です。

当院の5つの理念をご存じでしょうか。1番目は“安全で質の高い医療を提供する”、そして5番目には“臨床研究を推進し、国際医療協力に貢献する”とあります。この2つが交わるところで、職員の皆さんに臨床研究と国際医療協力の場を提供し、支援する組織として、臨床研究センターの存在理由があると考えます。

一方でNHOにおける臨床研究センターは10カ所のみに設置されており、77カ所ある臨床研究部とともに、“機構の診療ネットワークを活用し、(多施設共同臨床研究により)政策医情報発信を行う拠点となる研究組織”であると位置づけられています。

私たち医療人が、日々の医療行為/業務を振り返り、EURECA(“分かった”)と感じながら医療の質向上につなげてゆく取り組み。ひとりで、チームで、多施設の仲間と共同で、“患者さんに学び、患者さんに還す”、臨床研究。研究を行う満足感の醸成、もちろん学会発表や論文化にもつながるよう、研究支援を整備し、拡げ、進化させたいと思っています。

来年はセンター開設25年になります。肝疾患の準ナショナルセンターとして産まれたセンターですが、最近ではAIを用いた医療研究や、定量的看護チーム研究の場にも変化しています。“より良い医療へ、より良く人間を理解するために” ひとりでも多くの皆さんへ、臨床研究への参加をお待ちしています。



事務部長 就任のご挨拶

池間 忍

上昇

令和８年４月1日付で、琉球病院から配置換により事務部長を拝命いたしました池間と申します。どうぞよろしくお願いいたします。

当院での勤務は初めてであり、病院の規模や業務の多様さに戸惑うこともありますが、一日も早く皆様のお力になれるよう努めてまいります。

近年、医療を取り巻く環境は大きく変化しており、新たな地域医療構想や令和８年度の診療報酬改定においては、限られた医療資源の中で医療を持続可能な形で提供していくため、効率的な運営や医療機関間の役割分担の明確化が重視されています。

加えて、物価や人件費の上昇、医療従事者の確保が困難となる中で、医療機関の経営環境は年々厳しさを増しており、安定した医療提供体制を維持していくためには、これまで以上に経営面からの支えが重要になっていると認識しております。

このような状況の中、事務部といたしましても、業務の負担軽減や効率化に努めるとともに、経営改善に取り組み、職員の皆様が安心して働ける環境づくりに取り組んでまいりたいと考えております。引き続きご指導ご協力をお願いします。

TOPICS

学会を肺ジャック!

呼吸器内科　茂山 航大



2026年2月13日・14日に久留米市で開催された日本肺癌学会九州支部学術集会・日本呼吸器内視鏡学会九州支部学術集会に参加しました。当院からは田川先生を筆頭に呼吸器内科・呼吸器外科スタッフ5名、研修医6名のあわせて11名が参加しました。

本学会では一般演題84題、研修医演題20題、学生演題3題の計107題が発表されました。そのうち当院からは呼吸器内科・呼吸器外科スタッフより7題、研修医より6題の計13題を発表し，全演題の12.1％（研修医演題では30％）を占めました。多数の演題発表を通じて、当院における日頃の診療・研究成果を発信するとともに、活発な質疑応答を通じて多くの学びを得る貴重な機会となりました。会場では多くの先生より「長崎医療センター頑張っているね。」とのお言葉を頂戴し、学会終了後も呼吸器内科の重鎮の先生より同様のお声掛けをいただきました。誰かが見てくれているのだと感じるとともに、地方会発表など地道な学会活動の重要さをあらためて認識しました。また懇親会では他施設の先生方と交流を深め、情報交換を行うことができました。今回得られた知見やつながりを今後の診療に活かし、より一層地域医療に貢献してまいります。



すばらしい発表をしてくれた研修医の大村直也先生、鹿島功暉先生、片山あかり先生、平良瞭典先生、野田知生先生、松竹谷海斗先生（名前順）、お疲れさまでした！

ガーデニング便り

Vol.24

今回紹介するのは、春を告げる花の代表「チューリップ」です。すらりと伸びた茎の先に咲く色とりどりの花は、見る人の心を明るくしてくれます。赤・黄色・ピンクなど品種も多く、花びらの形や咲き方もさまざまです。秋に球根を植えると、寒い冬を土の中でじっと耐え、春になると元気に芽を出します。我が家の花壇でも春の訪れとともにチューリップが咲き始めました。

副院長　黒木 保



医長紹介



内分泌・代謝内科医長
野崎 彩

一症例一誠心

【専門分野】
内分泌・代謝内科

【プロフィール】
出身地：長崎県
長崎大学医学部卒業
2013年 長崎大学大学院にて研究・診療従事
2017年 長崎みなとメディカルセンター勤務



２０２６年２月より長崎医療センターに赴任してまいりました野崎と申します。出身は長崎で、長崎大学医学部卒業後、県内外の基幹病院で研修を積み、２０１３年より大学院にて研究・診療の両面から研鑽を重ねました。２０１７年からは長崎みなとメディカルセンターで約８年間、糖尿病・内分泌疾患診療に従事してまいりました。久しぶりの異動となり、不慣れな点もありご迷惑をおかけすることもあるかと存じますが、初心を忘れず誠実な診療を心がけてまいります。

【糖尿病領域】

近年、糖尿病患者数は増加の一途をたどり、より高度で継続的な管理が求められています。治療は画一的ではなく、年齢、病態、合併症、社会的背景や価値観を踏まえた個別化医療の時代です。最新のエビデンスに基づきながらも、患者さん一人ひとりの人生に寄り添い、合併症予防と健康寿命の延伸を目指します。

【内分泌領域】

内分泌疾患は倦怠感や体重変化、高血圧など日常的な症状の背後に潜むことが多く、常に疾患を疑う姿勢が診断の鍵となります。丁寧な問診と的確な評価を通じて確定診断に導き、適切な治療により患者のＱＯＬが大きく改善した瞬間に立ち会えることは、本領域の大きなやりがいです。

長崎医療センターでの勤務は初めてですが、地域の先生方と連携し、信頼される診療科づくりに尽力してまいります。今後ともどうぞよろしくお願い申し上げます。





Vol.6 尾﨑 真人

診療情報管理専門職　尾﨑 真人
【出身地】諫早市
【趣味】MLB観戦（大谷選手）
【漫画】スラムダンク、キングダム

プロフェッショナル を紹介します!!

日常での業務内容を教えてください。

私は診療情報管理士として、診療情報を扱う部署（診療情報管理室）と病院の経営を考える部署（経営企画室）の両方で仕事をしています。患者さんの診療内容が正しく記録されているかを確認し、病院全体の医療データを集めて分かりやすく整理・分析することが主な業務です。

近年は業務効率化やDX推進にも関わり、2024年に発足したDX推進チームは現在までに国立病院機構内で41施設へと活動が広がりました。チーム内に「相談できる場所」ができたことで、現在までに90件の業務改善が行われ年間約4,500時間の効率化が実現しています。これまで手作業で行っていた集計や資料作成の自動化を進めるなど、現場の「少し大変」を減らせるよう日々工夫を重ねています。

診療情報管理士を志したきっかけは何ですか。

医療現場を支える仕事に携わりたいと考える中で、「診療情報管理士」という職種を知ったことがきっかけです。直接患者さんと接する機会は多くありませんが、診療情報を通して医療の質や病院全体を支えられる点に大きな魅力を感じました。診療内容を正確に整理・分析することで、医療の安全性向上や経営改善にも貢献できることを知り、この仕事を志すようになりました。働く中で、データやITの力によって医療現場を支えられる可能性を実感しています。



経験を積む中で、視野や気持ちに変化はありましたか。

経験を重ねるにつれ、個々の診療記録を見る視点から、病院全体を俯瞰して考える視点へと変化してきたと感じています。以前は「正しく入力されているか」が主な関心事でしたが、現在は「電子カルテやITを通じてもっと働きやすい職場にできないか」「病院運営にどのような影響があるのか」「地域中核病院として何ができるのか」を考えるようになりました。他職種との対話を通じて、自分の仕事が医療の質や経営に直結していることを実感し、診療情報やITの面から病院を支えられる点にやりがいを感じています。


推進チームのキックオフミーティング


PCスキルに関するワークショップ

仕事で大切にしていること（マイルール）はありますか。

私が仕事で大切にしているのは、「まずは挑戦してみる」という意識です。できるかどうかを最初から考えすぎず、病院や職員、患者さんのためになると思ったことには、実際に行動を起こすよう心がけています。「こうなったらいいな」という思いを大切にし、小さな挑戦から大きな挑戦まで意識することで、何もせず時間だけが過ぎていくよりも、実りある経験につながると考えています。そのためにも、目的を明確にし、「何のための挑戦なのか」を常に意識しながら、日々のスキルアップと仕事に対する誠実な姿勢を大切にしたいと考えています。



令和8年度 新入職員!


3A
石楚
3A病棟


3B
3B
思いやる力
助け合う力
挑戦する力


4A
4A病棟
育
~共に成長する~


4B
一期一会


5A
5A
殻を破る


5B
七転八起


6A
6A病棟
走


6B
6B病棟
豊


7A
挑


7B
一究入魂


9A
SHINE


8B
勇往邁進


OP
手術室
焦らず一歩ずつ
～四連四歩～



外来診療担当医一覧表

受付時間　8時30分～11時30分（ただし急患はその限りではありません。）

（★は新患対応）令和8年5月1日現在

	月	火	水	木	金
総合診療科	当番制	当番制	当番制	当番制	当番制
肝臓内科	★長岡　進矢 ★末廣　智之 ★児嶋　知仁 山﨑　一美	★佐伯　哲 ★末廣　智之 ★釘山　有希	★小森　敦正 ★山﨑　一美 佐伯　哲	★長岡　進矢 ★本吉　康英 ★小森　敦正	★本吉　康英 ★釘山　有希
消化管内科	★西山　仁	★後藤　高介 ★峯　彩子	午前　★西山　仁 午後　★中島　悠史郎 （炎症性腸疾患 専門外来）		★中島　悠史郎 （炎症性腸疾患　専門外来） ★今村　祥子
内分泌・代謝内科	★野崎　彩 ★松本　圭祐 徳満　純一	★徳満　純一 野崎　彩 松本　圭祐	★野崎　彩 徳満　純一	★徳満　純一 ★松本　圭祐 野崎　彩	
腎臓内科	★岡　哲 井上　大		★髙尾　れいら 岡　哲	井上　大	★井上　大 髙尾　れいら
循環器内科 午前	★小出　俊朗	★百岳　龍平	★森　彩	★松尾　崇史 ★石松　卓（不整脈）	★深江　貴芸
循環器内科 午後	★島　千波	百岳　龍平	於久　幸治	石松　卓（不整脈）	
呼吸器内科	★原　敦子 池田　喬哉	★川嵜　光一	近藤　晃 ★池田　喬哉	★乗富　大地	★近藤　晃 原　敦子
血液内科	午前　小林　裕児 午後　★渡辺　春香	★今泉　芳孝	吉田　真一郎	午前　今泉　芳孝 午後　★小林　裕児	午前　吉田　真一郎 午後　★桐野　祐子
脳神経内科（神経内科）	★佐藤　和明 天野　貴徳　（午前） 鬼塚　啓一郎　（午後）	★徳田　昌紘 ★鬼塚　啓一郎 岩永　洋	★山下　魁理 徳田　昌紘		★天野　貴徳 岩永　洋
膠原病・リウマチ内科	★岡田　覚丈		★岩永　希	★岩永　希	午後　★岡田　覚丈
小児科 午前	★本田　涼子（神経） ★桑原　義典（心臓・一般） ★西口　奈菜子（神経・一般） ★尾上　祐大（一般） 武田　敬子（新生児・乳児） 黒岩　かほり（新生児・乳児）	★本村　秀樹（心臓） ★石橋　洋子（心臓・一般） ★池田　英史（心臓・一般） 田中　茂樹（神経） ★泊　由里子（一般） ★西口　奈菜子（神経）	★青木　幹弘（新生児・乳児） ★本田　涼子（神経） ★和泉　啓（内分泌） ★桑原　義典（心臓・一般） ★泊　由里子（一般） 食物アレルギー外来	★西口　亮（新生児・乳児） ★石橋　洋子（心臓・一般） ★石川　太郎（一般） ★佐藤　美悠（神経・一般）	★青木　幹弘（新生児・乳児） ★池田　英史（心臓・一般） ★石川　太郎（一般） 本村　秀樹（心臓） 安　忠輝（神経）
小児科 午後	発達外来	★本村　秀樹（心臓）	一ヶ月健診 ★大学医・当番医（内分泌）	発達外来	シナジス外来
皮膚科 ①外来紹介・新患	★石川　博士	★中牟田　瑠璃	★石川　博士 午後　★宿輪　哲生	★中牟田　瑠璃	★濱辺　真奈
皮膚科 ②旧患	中牟田　瑠璃	石川　博士	濱辺　真奈	石川　博士	中牟田　瑠璃
皮膚科 ③入院中の紹介	濱辺　真奈	濱辺　真奈	中牟田　瑠璃	濱辺　真奈	石川　博士
外科	★黒木　保（胆・膵） 山下　万平 （胆・膵・一般外科）	★米田　晃 （食道・胃・一般外科） ★福井　彩恵子（一般外科） ★南　恵樹（乳腺・内分泌外科） ★森田　道（乳腺・内分泌外科）	★釘山　統太（肝）	★米田　晃 （食道・胃・一般外科） 南　恵樹（乳腺・内分泌外科） ★森田　道（乳腺・内分泌外科）	★竹下　浩明 （大腸・肛門・一般外科） ★大石　海道（大腸・肛門） 藤岡　ひかる （肝・胆・膵・消化器）
呼吸器外科			★田川　努 ★松本　理宗		
心臓血管外科			★有吉　毅子男 ★嶋田　隆志		★有吉　毅子男 ★嶋田　隆志
脳神経外科	★小野　智憲 ★原口　渉	★案田　岳夫	★定方　英作	午後　原口　渉	★小野　智憲 ★吉村　正太
整形外科・リハビリテーション科	★山口　雄一	★宮本　俊之（第1・3・5） （再 第2・4） ★梅木　雅史（第2・4） （再 第1・3・5）	★前田　純一郎 ★津田　宗一郎	★向井　順哉	
形成外科	★信國　里沙 ★巖水　舞（第4） ★熊本　万由子（第3・5）	★熊本　万由子（第4） ★巖水　舞（第3・5）	★古賀　一史	★信國　里沙 ★熊本　万由子	★古賀　一史 ★巖水　舞
産婦人科	★古賀　恵 ★福田　雅史 プレコンセプション外来 ワクチン外来	★安日　一郎 ★山下　洋 胎児スクリーニング外来	★菅　幸恵 ★杉見　創 産褥1ヶ月検診（午後）	★五十川　智司 ★山口　純子 子宮鏡外来 ワクチン外来	★福田　雅史 ★小川　真幸 レジデント外来 NIPT外来
泌尿器科	★大仁田　亨 鹿子木　桂	錦戸　雅春	★上田　康史	★鹿子木　桂	★大仁田　亨 ★武藤　大祐
移植後フォローアップ外来	錦戸　雅春	松屋　福蔵	錦戸　雅春		大仁田　亨
耳鼻咽喉科	★田中　藤信 ★吉田　晴郎 ★神田　悠志	★吉田　晴郎	★田中　藤信 ★前田　耕太郎 ★神田　悠志	★塚本　愛麗子	★田中　藤信 ★前田　耕太郎
眼科	★前川　有紀 ★中尾　志郎 ★田島　遥香 ★大槻　早紀 ★古田　彩子	★前川　有紀 ★中尾　志郎 ★田島　遥香 ★大槻　早紀 ★古田　彩子	午後　中尾　志郎	★前川　有紀 ★中尾　志郎 ★田島　遥香 ★大槻　早紀 ★古田　彩子	★前川　有紀 ★中尾　志郎 ★田島　遥香 ★大槻　早紀 ★古田　彩子
放射線科（治療）	本多　功一 武田　達哉	★本多　功一 ★武田　達哉 中村　太祐（午前のみ）	本多　功一 武田　達哉 中村　太祐（午後のみ）	本多　功一 武田　達哉	★本多　功一 ★武田　達哉

※紹介状なしで受診を希望される患者さんにつきましては、診察料とは別に、選定療養費として7,700円をご負担いただきます。
ただし、紹介状がある場合は選定療養費（7,700円）の負担はありません。「かかりつけ医」等からの紹介状をお持ちいただきますようお願いいたします。

理　念

高い水準の知識と技術を培い
さわやかな笑顔と真心で
患者さん一人一人の人格を尊重し
高度医療の提供をめざす

長崎医療センターの使命

長崎医療センターは以下の活動を誠実に行い、地域拠点病院として住民の皆さんと医療機関からの信頼を得ることを使命としています。

- 安全で質の高い医療を提供する
- すべての医療人と学生に魅力的な教育研修を提供する
- 救急医療の最後の砦となる
- 臨床研究を推進し、国際医療協力に貢献する
- 地域の医療機関、行政と密接に連携する

外来担当医一覧の最新版は
こちらからご覧ください

長崎医療センター NEWS
NAGASAKI MEDICAL CENTER NEWS
https://nagasaki-mc.hosp.go.jp/
VOL.445